

2025年3月17日

「矢倉孝一 メモリアル基金」

「井上圭子 メモリアル基金」

「アート&ヘルス基金・Good Job!基金」

共同助成プログラム

「障害者の芸術活動支援を行う NPO 等の

実践活動フォーラム等」

に対する助成プログラム

応募要領

募集期間：2025年3月17日～4月17日

公益財団法人パブリックリソース財団

1 フォーラム助成プログラムの趣旨

このたびの助成プログラムは、障害者の芸術活動への支援を志向する「矢倉孝一 メモリアル基金」、「井上圭子 メモリアル基金」、「アート&ヘルス基金・Good Job!基金」が共同で実施するものです。

障害者による芸術活動が日本において注目をされ始めたのは、今から30年ほど前のことです。日本各地において、障害者個人の表現活動を支援する団体が生まれ、創作の場の設定、社会に開かれた展示の場の設定、さらには芸術作品をもとにしたプロダクツの制作などを通じての障害者のなりわいとしての展開など、さまざまな活動が広がってきました。

この間、文化庁による「障害者等による文化芸術活動推進事業」も整備され、障害者が芸術を創造することができる環境整備や、障害のある方たちが制作した作品を鑑賞する機会の拡充もなされてきました。

この30年間に、どこまで障害者の芸術活動は充実してきたのか、その支援活動は現状はどのような状況にあり、当面している課題は何なのか、あるいは将来に向けてなすべき活動は何なのか、翻って、障害者の芸術活動を取り巻く「社会」の有り様はどうなっているのか・・・など、改めて、障害者の芸術活動への支援活動実践の現状と課題、また社会のあり方などを総合的に協議・検討するフォーラム等の開催を支援することが本助成プログラムの目的です。

【矢倉孝一 メモリアル基金の概要】

矢倉健次さんは重度の知的障害のお兄様と、そのお兄様を献身的に支えるご両親の元で育たれました。お父様の矢倉孝一さんは2022年1月31日に90歳で逝去されるまで常にお兄様の生活を案じられてきました。お兄様自身も折り鶴の制作をするなどの創作活動をされてきました。

矢倉さんはそのお父様の遺志を受け継ぎ、知的障害の方が生まれてから老いるまでのどのタイミングでも、肩身の狭い思いをすることなく、世の中でより良く共生し、幸せに人生を全うできる世界を願っています。ご自身が取材を続ける中で、そのような社会の実現するうえで、芸術活動は障害があっても個性を生かし、人格を認められる生き方として注目されました。

今回は「矢倉孝一 メモリアル基金」として、各地で障害者の芸術活動への支援を行っている実践活動の現状と課題を探るためのフォーラム等の開催を支援することとされました。

【井上圭子 メモリアル基金の概要】

井上圭子さんは、グラフィックアートを志して仕事を始めたのも束の間、病によって社会との関わりが閉ざされました。再び社会の扉を開けるきっかけは母が勧めてくれたクラブでした。さらに独学で絵画や刺繍などを創作し続けました。

病弱で社会との関わりを閉ざして過ごした半生を乗り越え、アートによって生きる力を

取り戻し、友人との関係が開かれていった人生。アートと共に、自身の心のままに豊かに生きた井上圭子さんの人生の軌跡は、膨大な量の作品が物語っています。

圭子さんの生涯を長く記憶にとどめたいという弟・井上良一さん、里美さん夫妻の思いが、アートの方で人生を豊かにする活動を支援する「井上圭子 メモリアル基金」に結実し、良一さんからの委託を受けパブリックリソース財団内に 2014 年 12 月に設立されました。

【アート&ヘルス基金・Good Job!基金の概要】

「アート&ヘルス基金」は、東日本大震災を契機に、福祉施設等にアートやアートアクティビティを導入して地域に開かれたケアの場をつくることを支援してきました。またアートやデザインの力を活用することで、障害者や高齢者、女性などのための新たな仕事づくりに資する活動を支援します。地域の方々が誇りをもち、生きる自信や楽しさを感じられるような、アートを通じた地域づくりを目指しています。

この一環として、2016 年に「Good Job! 基金」を設立し、障害のある人たち一人ひとりの個性ややりがいを尊重しながら、持続可能な仕事や職場をつくり出している先駆的・革新的な取り組みを支援することとしています。

2 助成プログラムの支援対象となる事業

障害者の芸術活動支援を行う NPO 等の実践活動の実態と課題についての活動事例を紹介しながら、現状と課題を洗い出し、障害者の人生をより豊かにするための芸術活動振興の方向を見出すことを目的としたフォーラム等の開催に対する助成です。フォーラム等の開催に際して、必要な調査（アンケートやヒアリング）も対象となります。

フォーラム等の成果には、障害者の芸術活動支援を行う NPO 等の実践活動への支援（資金支援・非資金的支援）に関する提言を含むものとします。

3 助成内容

(1) 助成対象となる団体

NPO 法人（特定非営利活動法人）、非営利型一般社団法人、社会福祉法人、公益法人などの非営利法人で、障害者の芸術活動への支援を行っている団体。

※任意団体は対象となりません。

(2) 助成金

① 1 団体あたりの助成金

400 万円

② 支援期間

1年間【助成決定（概ね 2025 年 6 月）から 1 年間：2026 年 5 月まで】

③助成対象団体

1 団体

④助成金の使途

フォーラム等開催及びその準備にかかる調査にあたっての事業・活動に必要な交通費や謝礼金、会議室借料、映像機器等借用料、印刷費、消耗品購入などの事業費、事業・活動遂行にあたってかかるその他の経費で使途は特に限定しません。対象事業・活動に必要な人件費や備品購入費にも充当いただけます。

ただし、申請金額の算定根拠があいまいである場合や過大である場合には、金額査定の結果、助成対象とならない場合があります。

5 応募要件(次の要件を全て満たす団体が応募できます)

- ①団体の所在地が日本国内であり、日本国内を活動の拠点としていること
- ②申請事業が日本国内の活動であること
- ③3年以上の法人としての通常事業実績があること
つまり、法人としての事業活動開始が 2022（令和 4 年）年 3 月以前であること
- ④反社会的勢力（暴力団、暴力団員、暴力団員でなくなった時から 5 年を経過しない者、暴力団準構成員、暴力団関係企業・団体、総会屋等、社会運動等標ぼうゴロ、特殊知能暴力集団等その他これらに準ずる者をいう）に該当せず、反社会的勢力を利用せず、反社会的勢力と社会的に非難されるべき関係を有しておらず、かつ、将来にわたっても該当しないこと
- ⑤ネットワークビジネス、マルチ商法、宗教、保険、同業者による勧誘等を目的としていないこと
- ⑥特定の政治団体・宗教団体に該当しないこと
※活動の目的や趣旨が政治・宗教・思想・営利などの目的に偏る団体も対象外となります。
- ⑦NPO 法人（特定非営利活動法人）、非営利型一般社団法人、非営利型一般財団法人、社会福祉法人、公益法人などの非営利法人であること
※任意団体は対象となりません
※一般社団法人、一般財団法人の場合、非営利型であることを証する定款を提出いただきます
- ⑧過去 3 年間の間に、団体の役員が禁固以上の判決を受けていないこと
- ⑨助成対象となった場合、団体名や活動内容を公表されることを了承すること
- ⑩助成開始後に、インタビューや写真・動画の提供をお願いした際に、これに協力すること
- ⑪助成開始後に、本基金関係者が活動現場の訪問をお願いした際に、これに協力すること
- ⑫助成期間終了後指定する期限内に、助成金の活用状況や活動の状況について報告書（事業

報告書及び会計報告書を含む) や写真または動画等を提出すること

6 選考方法

(1) 審査方法

専門家による公平・中立な審査委員会を設置し、書面による審査を行います。

必要に応じて事務局による電話、メール等によるヒアリングを行う場合や追加資料のご提出をお願いすることがあります。

(2) 選考結果の通知

審査の結果（採択・不採択）の通知は、メールにて通知します。

また、採択された団体名や活動内容は、パブリックリソース財団等の WEB サイトで公表します。

なお、採否の理由などに関するお問い合わせには一切応じかねます。

(3) 選考基準

○団体の信頼性

- 適切な組織運営がなされているか
- 適切な情報公開が行われているか
- 応募要件を満たしていること

○これまでの事業における実績

- 助成申請額に相応しい事業規模や活動実績があるか
- 利他の心をもって良心的で地道な活動実績が認められること

○目的の合致性（内容の適格性、独自性、先駆性等）

- 各支援分野、助成プログラムの支援テーマ、支援対象の目的と合致した事業であるか
- 各支援分野において新たに取り組む事業、社会的インパクトのある事業であるか

○計画の妥当性・実現可能性

- 支援対象のニーズや社会課題の原因等をよく把握、分析しているか
- 事業計画は社会的効果を生むように適切に計画されているか
- 助成金の使途や支出計画が適切であるか
- 事業の実施体制は十分か、関係団体などとの連携やネットワークを有しているか

○社会への貢献

- 社会課題の解決にむけて取り組む必要性や優先度が高いか

-受益者などのウェルビーイングを増進させる可能性が高いか

7 応募手続き

(1) 応募期間

2025年3月17日（月）～4月17日（木）17時まで

※お問い合わせは、4月17日（木）12時まで受け付けします。

(2) 応募方法

1. 「障害者の芸術活動支援を行う NPO 等の実践活動フォーラム」ウェブサイト（パブリックリソース財団ウェブサイト内）より、「助成プログラム申請受付窓口」にアクセス
2. 会員登録・応募団体登録を完了
3. 応募フォームにアクセスし申請内容を入力してください。

（添付書類は、応募フォームよりアップロードしてください。）

※「助成プログラム申請窓口」及び「応募フォーム」の使い方は、それぞれのサイトをご確認ください。

※すでに弊財団の「助成プログラム申請受付窓口」会員登録・応募団体登録がお済みの場合は、ログイン後に応募フォームにお進みください。

◆サイト URL : <https://www.public.or.jp/project/f0181>

※郵送やメール添付での応募は受付対象外となります。必ず上記の応募フォームからご応募ください。

(3) 提出書類

支援対象団体の確認及び審査情報として以下の情報を提出してください。

（注）「写し」とは、PDF もしくは JPEG 画像ファイルです。

<PDF もしくは画像データの作り方>

※コンビニなどのコピー機でも制作・保存できます（USB メモリーをご自身でご用意していただく必要があります）。

※スマホのスキャンアプリ、または写真アプリを使って作成したものでも問題ありません。但し、いずれの場合も記載内容が判別できる鮮明なものに限ります。

①代表者の本人の顔写真入りの公的身分証明書の写し（PDF または画像データ）

公的身分証明書とは、以下の書類となります。顔写真入りの公的身分証明書はいずれか1点で結構です。

- (1) 運転免許証（必ず両面）（返納している場合は、運転経歴証明書で代替可能）
- (2) マイナンバーカード（オモテ面のみ）
- (3) 写真付きの住民基本台帳カード（オモテ面のみ）

(4) 在留カード、特別永住者証明書、外国人登録証明書（在留の資格が特別永住者のものに限る）（必ず両面）

※顔写真入りの公的身分証明書がない場合には、住民票、健康保険証など写真のない公的書類や身分証明書2点の写しでも可。

※パスポートの場合は、写真付きの面の写しに加えて、住民票、健康保険証など写真のない公的書類や身分証明書1点の写しでも可。

※いずれの場合も申請を行う月において有効なものに限ります。

② 決算関係書類

(1) 直前の事業年度（原則2023年度）の決算書の写し（PDFまたは画像データ）

(2) 直前の事業年度（原則2023年度）の事業報告書の写し（PDFまたは画像データ）

③ 助成対象事業収支内訳テンプレート（指定した様式）

(4) 応募に関する問い合わせ先

応募に関してのお問い合わせは、「障害者の芸術活動支援を行うNPO等の実践活動フォーラム」の特設ウェブサイト内のお問い合わせフォームからお問い合わせください。

※個人情報の取り扱いについてはパブリックリソース財団の個人情報保護方針（<https://www.info.public.or.jp/privacy-policy>）をご覧ください。

※お問い合わせは、2025年4月17日（木）12時まで受け付けします。

8 手続き等

①1団体につき1申請とします。同一団体から異なるプロジェクトで複数の申請があった場合は、申請取下げいただくか、または不受理とします。

②助成決定後、助成決定通知書を発行しますので、助成金受入同意書をご提出ください。

③助成決定後、応募者とパブリックリソース財団は「覚書」を取り交わし、所定の手続きを経て助成をします。

④助成金は、上記の助成手続き完了後に振り込みます。

⑤助成対象となった場合、団体名や活動内容をパブリックリソース財団のWebサイト等にて公開します。

⑥助成開始後、当基金事務局より活動現場への視察やヒアリング、活動状況についてのインタビューや写真・動画の提供をお願いすることがあります。ご協力ください。

⑦助成対象事業終了後に「活動終了報告書」（実施報告書及び会計報告書を含む）を、1カ月以内にご提出ください。

9 スケジュール

2025 年

3 月 17 日（月）～ 4 月 17 日（木）

公募期間

4 月 18 日（金）～ 5 月下旬

審査期間

6 月初旬

審査結果通知（助成対象期間スタート）

6 月中旬

助成金振込